一匹の猫と僕の命

ハヤテ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
一匹の猫と僕の命

【Ｎコード】
Ｎ１３９５Ｅ

【作者名】
ハヤテ

【あらすじ】
ある日見かけた猫を連れて帰り、フシと名付けた、友達のフシを助けようとして、僕は……

ある日、僕は一匹の猫を見つけた、見るからに痩せていて、何も食べてない様だった、　　かわいそうだった、
僕は家に連れて帰る事にした、僕はその猫を
「フシ」と名付けた、
「フシ」は、僕に良くなついてくれた、ある日、朝起きると
「フシ」の姿がない、夜まで待っても帰って来ない、心配だから探しに言っても一向に見つからない、ずっと帰って来ない
「フシ」、僕は戻ってくると信じてずっと待ってた、夜もずっと寝なかった、だけどやっぱり
「フシ」は帰ってこなかった、
「フシ」は誰かに拾われたのだと思い、今までの生活に戻ろうとした、
「フシ」を忘れようと頑張った、　　僕は
「フシ」を心の片隅に置いといた、ある日、僕は買い物に出掛けた、いつもの店に普段通りに行った、ちょうど信号で止まっていたら目の前に
「フシ」だと思われる猫が、行きなり飛び出して行った、僕は
「フシ」だと思う猫を追いかけて飛び出した、猫を助ける一心で飛び出した、その時目の前が真っ暗になった、僕はそのまま目をつぶった、
「フシ」も目をつぶった、
「助けたかったのに」、助からなかった、僕はまだ
「フシ」と遊びたかった、色んな事したかった、だけど無理なんだ、僕はもう、この世にいないのだから、
「いつまでも」君を待ってるよ、
「フシ」は僕の一生の欠けてはならない友達だった、
「フシ」、僕は君と会えて本当に良かったよ、大好きだよ、ありが

とうございました。

（後書き）

初めて作ったので色んな所に問題があるかも知れないのですいません

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1395e/

一匹の猫と僕の命

2010年10月21日22時21分発行